

新しい年を迎えて



高山市議会議長 ^{すいもん}水門 ^{よしあき}義昭

新年あけましておめでとうございます。

市民の皆様におかれましては、平成29年の輝かしい新春をご家族お揃いで、ご健勝にてお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、市制80周年という節目にあたり、記念式典をはじめ将来へつなぐ様々な行事が開催されました。春には「飛驒匠の技・ころも」とともに、今に引き継ぐ「1300年」が日本遺産に認定され、木とともに生きてきた高山の歴史や飛驒匠の技とところを国内外に発信し、地域の活性化を図る取り組みが期待されるところです。また、秋には市民の皆様が長年待ち望んでいた高山駅舎と駅の東西を結ぶ自由通路が完成し、観光客を迎える玄関口として、中心市街地の活性化やにぎわいの創出、伝統文化のPRの効果が大きいに発揮されているところです。そして12月1日には、高山祭の屋台行事など国内の33「山・鉾・屋台行事」が、念願のユネスコ無形文化遺産に登録されるという吉報がもたらされ、関係者の皆様をはじめ市民の皆様とよろこびをともにしたところでもあります。

一方では、天候の不順などによる自然災害への不安、景気の先行きが心配された年でありましたが、観光面においては、広大な地域の恵まれた自然、飛驒牛・米・日本酒などの食、情緒豊かな伝統文化や多種多様な温泉などのPRや積極的な観光客誘致、各地と連携した観光ルートの設定などにより、外国人観光客をはじめ国内外の観光客の入り込みが着実に増加し、多くの人々に本市が誇る豊富な観光資源

やおもてなしの心を堪能していただけたものと嬉しく思っております。

今年、4月末にユネスコ無形文化遺産の登録を記念して春と秋の高山祭屋台23台の曳き揃えが予定されており、秋には全国和牛能力共進会が仙台で開かれ、飛驒牛のV奪還が期待されることです。また、国道361号上ヶ洞トンネルが開通間近と聞いており、大型バスの通行が容易となり、2020年に迫った東京オリンピックにむけて飛驒御嶽高原高地トレーニングエリアの活性化に弾みがつくものと思っております。

今、本市を取り巻く環境は、人口が8万人台に減少する中、少子高齢化、不安定な景気動向、公共施設の維持管理等、これまで以上に困難な、そして予測が難しい社会経済情勢のなかにあります。

議会では、これまで取り組んでまいりました議会改革の検証を進め、二元代表制の一翼を担う議事機関として、広大な市域におけるまちづくりの責任ある意思決定機関として、その責務を果たすため、市民の皆様の声を市政に反映する取り組みをより一層進め、市民福祉の向上を図るため、民主的で持続可能なまちづくりに全力で取り組んでまいります。市民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

本年が、市民の皆様にとって健やかで幸せに満ちた一年となりますことを心からお祈り申し上げます、新年のごあいさつとさせていただきます。